

(1)

質問「また大きな地震が起きる可能性はありますか」

回答

日本ではまた大きな地震が起きる可能性があります。日本のまわりには「プレート」と呼ばれる大きな岩の板のようなものがいくつも集まっていて、ゆっくりと動いています。そのプレートどうしがぶつかったり、もぐりこんだりすることで、地震が起きます。

東北地方も、そうしたプレートの境目にあるため、地震が起きやすい場所のひとつです。研究者達は地震のしくみをくわしく調べていて、地震による被害を少なくするための研究が進んでいます。ふだんから避難場所を確認したり、家族で話し合ったりして備えておくことで、自分や家族の命を守ることができます。

(2)

質問「地震を調査するとき、岩石の中の水分量を調べるとありましたが、それはどのような方法で調べるかを知りたいです。」

回答

地下の流体（水）の分布や量、性質を調べる方法は対象とする深さや規模によって変わります。実際の地層を採取できる深さでは、採取した地質試料から直接流体を採取してその化学的な性質を調べます。試料が採取できない深さでは、地震波の伝わり方や電流の流れ方を計測して、その計測データから流体の分布や存在する状態（水圧）などを調べます。

(3)

質問「JAMSTEC は高専卒採用があるが、今年度のインターン募集はあるのか？また、どのような職種があるのかを知りたいです。」

回答

JAMSTEC のホームページにインターン募集の情報ができています。現在のところ、大学3年生以上を対象に AI を用いたシステム開発に関するインターン募集が出てきます。現在、施設系人材（技術職、むつ研等の地方拠点含む）についてインターンシッププログラムを検討しており、高専の方の応募についても業務内容により対象としていく予定です。随時 JAMSTEC のホームページのインターン募集のページをご確認ください。

(4)

質問「JTRACK はたくさんの地域・国から集まった研究者が集まっていたので色々な考え方があっとおもうので、どのような意見があったかをしりたい。」

回答

プロジェクトを計画する段階では、プロジェクト提案を作るために研究の目的、研究手段、そのための最適な場所、具体的な航海計画、など何度も国際会議を開いて検討しました。プロジェクトの実施中は、さまざまなことが日々おきますので、それにどう対応していくか、限られた航海日数をどのように有効に使うか、などを議論しました。実際に地質試料が採取された後は、それをどのように分けて、どのような研究をするかなどを議論しました。今後も、国際会議を開いて研究の途中でどのような結果が出ているかなどの情報を共有しながら研究を進めます。多くのことを議論しているので、個別の事例は挙げられませんが、研究の進め方や結果の解釈については、相反する意見も出るときもありますが、何度も議論を重ねて皆さんが納得する答えを出すようにしました。

(5)

質問「地震は不思議だなおもいました。今までの地震の起こり方と、まったく違う起こり方をしたと分かったときは、どれくらいびっくりしましたか。日本ではまた、2011年と同じくらいの地震は起きますか。」

回答

今までに実際に目にしたことがないことが起きたので、それを直接確認することができたときは、20年以上地震の研究をしてきて、その中で一番驚きました。

日本はプレートがぶつかりあうところですが、またいつか2011年と同じくらい地震は起きます。ただ、それがいつなのか、1000年先なのか、100年先なのか、はわかりません。また、正確に起きる場所も決めることはできません。ただ、昔の地震の起き方を調べると、東北地方では2011年と同じくらい大きさの地震は1000年くらいの前にも起きていたようです。

(6)

質問「日本では1年に何回地震が起きているのですか。青森県は地震は大丈夫なのでしょうか？」

回答

気象庁によると2024年1月1日から2024年12月31日までの1年間で体に感じる地震（震度1以上）の地震は全国で3678回ありました。大きな地震が起きるとそれに続いて小さな地震はおきるので、年によって回数は大きく変わります。

青森県はプレートがぶつかりあう境目に近いので、体に感じる地震が起きることがあります。ただし、いつ、どこで、どのくらい大きさの地震が起きるかはわかりません。日ごろから地震に備えた準備をすることが大切です。